

『小動物が棲む森林づくりー森林性猛禽類の生息環境の持続をめざす間伐運動会ー』 隠れ家づくり

今回は平成22年9月25日に列状間伐・馬搬を行った場所に、伐採した木や枝を積み上げて小動物の隠れ家をつくり、生物多様性を豊にする森づくりを行いました。この森はすでに定性間伐され、手入れが良いスギ林ですが、所有者のご協力で列状間伐を行ったところです。



開会式と作業の手順の説明



森林は野生動物にとって、餌資源の供給場所である他に、繁殖・営巣・休息・隠れ場などとして利用されています。

里山などの広葉樹林から燃料となる木などを採っていた昔には、適度に伐採が反復されてきたことにより、豊かな森が維持されていました。

しかし近年は、放置された里山や針葉樹人工林が多くなり、野生動物にとっては決して良い環境とはいえません。森林が増えています。



林道の途中で見つけたカモシカの足跡



スギの切り株にあるキノコ（クリタケ）

この森のように手入れが良いと、野生動物が利用しやすい環境が保たれます。



隠れ家の支障にならないためと、動物の誘導を目的にササや低木類をせん定ハサミを使って刈り取ります。

9月25日に行われた間伐の際
枝払いされた枝を片づけています。



植林で作った針葉樹人工林は、森林経営上間伐作業が行われます。間伐は、木の密度を減らしてお互いの競争を緩和させ、残された木を健全に育てるための調整作業です。間伐が行われないと森が強く閉鎖してしまい、下草の乏しい暗い森となります。ノウサギなどの小動物のエサである植物も育ちません。ノウサギを狩る翼が大きいイヌワシなどは、森に入れなくなります。

そのまま放置され続けると光が届かなくなり、やがては地表がむき出しになり保水力も失われ、森ほんらいの姿が失われてしまいます。そのため間伐は定期的に行うことが必要です。



玉切り(たまぎり)を行っています。



切り株を支えにして玉切りした木材を積んでいきます。



雪の重みで崩れないように杭(くい)を打ちます。





小枝を載せます。ノウサギなどの小動物が入れるすき間を空けます。
奥が行き止まりにならないようにします。
入り口と出口の2ヶ所が無いと利用しません。
また、
小枝のすき間から上空が見えないと利用しません。
実際に中に入って確認しています。



森の動物たちのために行った作業。
使用してもらえるといいですね。



木材搬出用の作業道にも作りました。



針葉樹人工林の間伐の方法として、質の悪い木を間引きしてゆく定性間伐(ていせいかんばつ)と、列状間伐(れつじょうかんばつ)などの木の密度の調節に重点をおく定量間伐(ていりょうかんばつ)があります。

今回のような列状間伐では1回の間伐で広い空間が作られるので、日当たりを好む植物や広葉樹が入ってきて小動物もやって来るようになります。そして小動物を餌として利用する大型猛禽類の狩り場としても利用されやすくなります。

針葉樹人工林の中に自然に広葉樹が混ざること、動物たちが棲む豊かな森が作られていくこととなります。つまり列状間伐は、生物の多様性を高めるための手入れ方法だといえます。

この事業は平成22年度岩手県民参加の森林づくり促進事業として採択されたものです。岩手県立大学総政セミナーと岩手大学環境人材育成プログラム学外実習も兼ねて実施いたしました。

国の天然記念物・絶滅危惧種イヌワシの採餌行動を考慮し、営業地から餌狩り場として使用される行動範囲内として場所を選定しています。

なお事業には当会が運営する「イヌワシ基金」も使われています。